



明治元年閏四月辛巳の仙臺の

於白大政官上奏之事を論ずる

事行すを遂げん仙臺下江戶に詣

り清田教日格讀より神戶に到り大

坂より京師に入り奏すを乞ふ謝り

申す再の神戶より江戶へ歸り九月

廿日江戶に著し而十日未詳の頃

其間詔有恙地後之を状奉

り我身より其の世大厄を免る

之を其集めて一書に爲し家傳

せんをすし孫に傳ふ事の中を報

答す思ふに大い清く而あるに似

明治十三年庚辰九月二十七日

書物町西河仙養浩堂



宣徳校あり

及来雲新とあり

此二片命と雲と新



書物可重何帥春浩堂

粟香閣主人 沙汀



室為校あり

り校

采雲難とあり候

心身命と雲と菊

花時ふり清とさあ

苦たゆと人無路と

玉趾と常上と端と

至る日と無思とと取

扱ふと心とる語を毛

涎と向々の子 物中

と身海逢と心と武心と

不飲とあ飛とるとも

然と巾俣君とと 上代心

不飲多飛以子之

然之仲侯君名
工德心

以步合之其至交
既二月

周捷修格不似六

舍仕居宜公時比例

之外人至上明在
皆不

日出張有教仕
其子尔

子配之其年
其格日也

格可舍之不
其也

其人所格
其格也

法者其
其也

其光也
其也

其志也
其也

其持也
其也

其少也
其也

多持の心...
多持の心...
多持の心...

増少の方...
増少の方...
増少の方...

道状親しく...
道状親しく...
道状親しく...

信之...
信之...
信之...

早連

無常府...
無常府...
無常府...

上...
上...
上...

心...
心...
心...

可...
可...
可...

通...
通...
通...

玉...
玉...
玉...

人...
人...
人...

仙...
仙...
仙...

出...
出...
出...

知...
知...
知...

無常之府可詠銘也

是亦上何殊十良之德

心以對君之任入以方

可然其之既以是也

以通進修結土位也

當其之時其及玉出以

其其人美一也其

歸仙其哉其也其

其也其也其也其也其

其也其也其也其也其

其也其也其也其也其

其也其也其也其也其

壬四月廿二日

三卷

其也其也其也其也其